

【第1章】 式典・行事等の記録

イベント

1 ピナイサーラの滝トレイルウォーク

大会のイベントとして、竹富町西表島において、マーレ川およびヒナイ川でのカヌー体験、県内最高落差 55 メートルのピナイサーラの滝を鑑賞するトレッキングを実施し、マングローブ林、ジャングルのような森など、西表島の自然の魅力を感じることができました。

【開催日程】 令和5年7月17日（月・祝）

【場所】 竹富町（西表島）

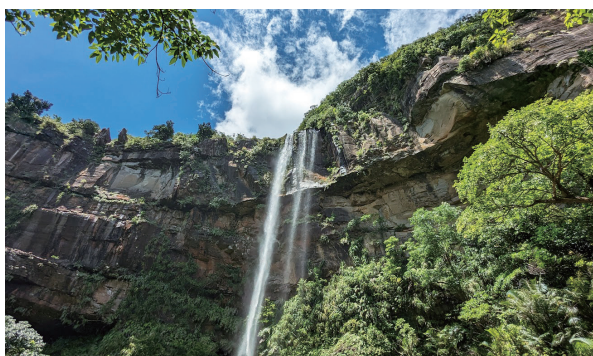
【参加人数】 12名

【参加特典】 お土産、飲料、行動食等

< 行程 >

- 08:30 ----- 石垣港出発
- 09:20 ----- 西表島上原港着
- 09:30 ~ ----- ピナイサーラの滝トレッキング
- 14:30 ----- 西表島上原港
- 15:20 ----- 石垣港到着

イベントの様子



2 エコツアー子どもウィーク拡大イベント

西表島エコリズム協会が、毎年、子どもたちを対象に島の自然や文化を学ぶ「エコツアー子どもウィーク」を開催しています。令和5年は大会開催を記念して、本イベントの拡大版として、大見謝ロードパークからゲータの滝を目指しながら西表島の自然と文化を学ぶための自然体験ツアーを実施しました。

- 【開催日程】 令和5年8月7日（月）
8:30～13:00
- 【場 所】 竹富町（西表島）
- 【参加人数】 西表島在住の小中学生6名
- 【参加特典】 お土産、飲料、行動食等

< 行程 >

- 8:30 ----- 大見謝ロードパーク出発
- 9:15 ----- ゲータの滝到着
西表島の植物や生き物学習会
ゲータ滝での滝つぼ遊び
- 13:00 ----- 大見謝ロードパーク到着

イベントの様子



3 「山の日」PRパネル展

- 【開催日程】 令和5年7月17日（月）
～8月11日（金）
- 【場 所】 石垣港離島ターミナル 1階
- 【展示内容】
 - ・山の日全国大会のPR
 - ・おきなわ百低山フォトグランプリ作品の展示
 - ・KEEN JAPAN（協賛企業）の広告掲載等



トレイルウォーク

1 概要

第7回「山の日」全国大会の開催に合わせたオプションツアーとして、トレイルウォーク※を実施し、世界を魅了する亜熱帯の山々を楽しむ機会となりました。

※トレイルウォークとは、トレッキングに加え、沖縄の自然、文化、歴史などの魅力も体感する本大会での取組。

【開催日時】 令和5年8月10日（木）～11日（金・祝）

【場 所】 国頭村、大宜味村、東村、竹富町

【参加人数】 154名（一般公募等）

【コ ー ス】 8月10日（木）開催①～⑥コース
8月11日（金・祝）開催①～④コース

【参加特典】 お土産、飲料、行動食等

2 コース紹介

8月10日（木）トレイルウォーク（全6コース）

※②「電気バス乗車によるやんばる森林巡りと比地大滝トレッキング（国頭村）」は、台風6号の影響により開催中止。

1 大石林山トレッキングと森林セラピーツアー

■ 場所 / 国頭村 ■ 時間 / 7:30～19:15 ■ 参加人数 / 17名

< 行程 >

- 7:30 沖縄県庁前（県民広場）
- 10:30 大石林山トレッキング
- 12:00 辺戸岬周辺（昼食）
- 12:45 辺戸岬出発
- 13:40 やんばる学びの森森林セラピーツアー
やんばる学びの森出発
- 16:15 道の駅やんばるパイナップルの丘安波
- 19:15 沖縄県庁前（県民広場）



2 電気バス乗車によるやんばる森林巡りと比地大滝トレッキング

開催中止

■ 場所 / 国頭村

< 企画案 >

- 8:00 沖縄県庁前（県民広場）
- 10:10 道の駅ゆいゆい国頭（電気バスへ乗り換え）
- 10:20 電気バスによる大石林道ツアー
- 12:10 道の駅ゆいゆい国頭（昼食）
- 13:20 比地大滝ツアー
- 16:00 道の駅ゆいゆい国頭（買い物）
- 18:30 沖縄県庁前（県民広場）



※企画イメージ

3 山と水の生活博物館見学と秘境トレッキング

■ 場所 / 東村 ■ 時間 / 8:30 ~ 19:00 ■ 参加人数 / 11名

< 行程 >

- 8:30 沖縄県庁前（県民広場）
- 11:00 山と水の生活博物館
- 12:00 Café & Restaurant Coral（昼食）
- 13:00 秘境トレッキング（福地ダム周辺等）
- 16:50 道の駅サンライズひがし
- 19:00 沖縄県庁前（県民広場）



4 福地ダム自然観光船と慶佐次マングローブ林カヌー体験コース

■ 場所 / 東村 ■ 時間 / 8:00 ~ 19:00 ■ 参加人数 / 18名

< 行程 >

- 8:00 沖縄県庁前（県民広場）
- 10:30 福地ダム自然観察船
- 11:45 東村村民の森つつじエコパーク（昼食）
- 13:00 慶佐次マングローブ林でカヌー体験
- 16:15 道の駅サンライズひがし
- 19:00 沖縄県庁前（県民広場）



5 ネクマチヂ岳とボウジムイトレイルウォーク

■ 場所 / 大宜味村 ■ 時間 / 7:45 ~ 18:45 ■ 募集人数 / 11名

< 行程 >

- 7:45 沖縄県庁前（県民広場）
- 10:00 イギミハキンゾー登山口
ネクマチヂ岳トレイルウォーク
- 12:00 イギミハキンゾー登山口（昼食）
- 13:00 ボウジムイルートトレイルウォーク
イギミハキンゾー登山口
- 15:30 六田原展望台
- 16:20 道の駅おおぎみ
- 18:45 沖縄県庁前（県民広場）



6 浦内川をのぼるトレイルウォーク

■ 場所 / 竹富町（西表島） ■ 時間 / 8:00 ~ 17:20 ■ 募集人数 / 13名

< 行程 >

- 8:00 石垣港離島ターミナル集合
- 8:30 石垣港出発（船移動）
- 9:15 西表上原港到着
- 10:00 浦内川下流船着場出発（遊覧船）
- 10:30 上流船着場到着後トレッキング
- 11:00 マリユドゥの滝（展望台より）
- 11:50 カンピレーの滝周辺散策（昼食）
- 14:30 浦内川から上流船着場まで散策
- 15:00 浦内川上流船着場出発（遊覧船）
- 15:15 浦内川下流船着場到着
- 16:30 西表島上原港出発
- 17:20 石垣港到着



8月11日（金・祝）トレイルウォーク（全4コース）

1 EVバス乗車やんばる大国林道見学ツアー

■ 場所 / 国頭村 ■ 時間 / 13:30 ~ 17:15 ■ 参加人数 / 13名

< 行程 >

- 13:30 大宜味小中学校出発
- 13:45 道の駅ゆいゆい国頭（昼食）
- 14:30 大国林道電気バスツアー
- 16:30 道の駅ゆいゆい国頭（トイレ休憩）
- 17:15 大宜味小中学校到着



2 塩屋富士ウォーキングコース

■ 場所 / 大宜味村 ■ 時間 / 13:30 ~ 17:30 ■ 参加人数 / 18名

< 行程 >

- 13:30 大宜味小中学校出発
- 13:45 大宜味スカイテラス（昼食）
- 14:30 六田山トレイルウォーク
- 17:00 道の駅おおぎみ
- 17:30 大宜味小中学校到着



3 福地ダム見学と慶佐次マングローブ散策コース

■ 場所 / 東村 ■ 時間 / 13:30 ~ 18:30 ■ 参加人数 / 15名

< 行程 >

- 13:30 大宜味小中学校出発
- 13:50 かねやん食堂（昼食）
- 14:50 山と水の生活博物館
- 15:30 福地ダム自然観察船乗船
- 16:45 慶佐次マングローブ林散策
- 17:45 道の駅サンライズひがし
- 18:30 大宜味小中学校到着



4 大石林山自由散策コース

■ 場所 / 国頭村 ■ 時間 / 13:30 ~ 18:00 ■ 対象 / 記念式典・行事の参加者
 ■ 参加人数 / 38名（後日参加を含む）

< 行程 >

- 13:30 大宜味小中学校出発
- 13:45 道の駅ゆいゆい国頭（昼食）
- 14:10 大石林山到着 自由散策開始
- 17:30 大石林山
- 18:00 大宜味小中学校到着



歓迎レセプション

1 概要

沖縄本島北端の辺戸岳のふもとで、自然景観に優れた「やんばる国立公園」の中にある大石林山を舞台に開催しました。国民の祝日「山の日」を迎えることへの感謝とともに、アジアとの交流の歴史により育まれた琉球芸能でお迎えし、参加者が亜熱帯の山の魅力も感じながら、「ちむどんどん（心がワクワク）」する懇親の場となりました。

【開催日時】 令和5年8月10日（木）17:00～17:50

【会場】 国頭村 やんばる国立公園大石林山

【参加者】 125名（招待者）

2 プログラム

	次第	内容
1	オープニング	オープニングアトラクション 龍神伝説（獅子舞）
2	開宴の言葉	超党派「山の日」議員連盟 事務局長 衆議院議員 務台 俊介
3	主催者挨拶	大会実行委員会 会長 沖縄県知事 玉城 デニー
4	乾杯	大会実行委員会 副会長 衆議院議員 橋本 岳
5	歓迎の言葉	大会実行委員会 副会長 国頭村長 知花 靖
6	開催町村及び来賓御紹介	—
7	御歓談	メインアトラクション「山の日ミニライブ」 池田 卓（歌・三線）
8	次期開催地挨拶	次期開催地代表 東京都 環境局長 栗岡 祥一
9	終宴の言葉	超党派「山の日」議員連盟 参議院議員 赤池 誠章



■ 会場外観



■ お土産を入れたトートバック



■ 歓迎レセプション式次第



3 挨拶

開宴の言葉

超党派「山の日」議員連盟 事務局長
衆議院議員
むたい しゅんすけ
務台 俊介



主催者挨拶

大会実行委員会 会長
沖縄県知事
たまき
玉城 デニー



乾杯

大会実行委員会 副会長
衆議院議員
はしもと がく
橋本 岳



歓迎の言葉

大会実行委員会 副会長
国頭村長
ちばな やすし
知花 靖



次期開催地挨拶

次期開催地代表
東京都 環境局長
くりおか しょういち
栗岡 祥一



終宴の言葉

超党派「山の日」議員連盟
参議院議員
あかいけ まさあき
赤池 誠章



4 主催者挨拶



大会実行委員会 会長 沖縄県知事 玉城 デニー

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら。皆様こんにちは。うちなーやんばるんかい、いみんそーちきみそーち、いっぺーかふーしでーびる。沖縄県国頭村、この山の麓へ皆様をお迎えできたことを大変うれしく思います。

本日は、第7回「山の日」全国大会の歓迎レセプションにご参加いただき、誠にありがとうございます。皆様を心から歓迎申し上げます。

第7回「山の日」全国大会が、令和3年7月に世界自然遺産に登録されました国頭村、大宜味村、東村、そして竹富町西表島で開催されますことは、世界自然遺産地域の保護と適正な利用の両立を目指した取組を推し進める沖縄県にとって、この上ない好機であり、大変うれしいことであると感謝の言葉に尽きません。

これまで、本大会は名だたる名峰を持つ山岳県で開催されてきました。山のない沖縄県で「山の日」全国大会を開催することについて、疑問に思われた方も多いと思います。「自然を愛し、自然を育む、その自然を後世に伝えていく。」これは私たち日本国民共通の思いであり、沖縄県もその思いを皆様と喜びに共有する地域であるということを広くお知らせする意味でも、大変有意義な取組だと思えます。

沖縄県は最も高い山でも標高525mと、高い山こそありませんが、亜熱帯特有の動植物が数多く生息する生物多様性豊かな森林を有しております。鳥のさえずり、様々な昆虫の鳴き声、草花の香りなどを五感で感じながら散策することができるトレッキングコースですとか、山頂からはサンゴ礁の海を見渡す爽快な眺望とセットでトレッキングを楽しむこともできます。南北に長く連なる地形的特徴から多様な環境の山々を有する我が国の中で、南の端に位置する沖縄県の山の魅力をこの大会を契機として発信していきたいと考えております。

このレセプション会場一帯も、実は世界自然遺産に登録されたやんばる国立公園となっております、石灰岩が浸食されてできた熱帯カルスト地形と、沖縄本島の北端である辺戸岬を見下ろす景観を楽しむことができる景勝地となっております。レセプション終了後にはミニツアーを開催いたしますので、どうぞお時間の許す方は是非ご参加ください。

そして、この会場の後ろには、琉球開闢（かいびやく）の祖神をまつる安須森御嶽（あすむいうたき）という聖なる場所があります。沖縄にはいたるところにこのような自然の中に自然神、生みの親（祖神）をたてまつる場所が各市町村それぞれに、そのいわれをもってまつられております。こういうことも皆様にご紹介させて頂きながら、沖縄の持つ山の魅力を楽しんでいただければと思います。

本日は、新型コロナ感染症への配慮から、お酒や食事の提供は控えておりますが、沖縄の海の幸、山の幸をふんだんに使用した松花堂弁当をご用意しましたので、お持ち帰りいただき、後ほどゆっくりご賞味いただければと思います。また、琉球松を使用したコースターや琉球紅型（びんがた）のしおりなど、開催4町村の特産品などを盛り込んだ記念品もご用意いたしましたので、併せてお土産としてお持ち帰りいただければと思います。

先程のオープニングでは、勇猛な獅子舞をご覧いただきましたが、この後も、竹富町出身のシンガーソングライター池田卓さんによるライブステージも準備しております。限られた時間ではありますが、沖縄の自然に加えて、芸能も皆様にご堪能いただきたいという趣向ですので、どうぞお楽しみいただければと思います。

結びに、第7回「山の日」全国大会歓迎レセプションにご出席いただきましたことに、改めて感謝申し上げますとともに、本大会の開催が皆様方、私達にとって有意義なものになりますことを祈念して、挨拶いたします。

まくとっし かりゆし かりゆし かりゆしでーびる。



5 アトラクション

オープニングアトラクション 龍神伝説

レセプションの幕開けは琉球の伝統を取り入れた獅子舞の演舞で歓迎しました。

演目 | 獅子舞「琉球ライオンダンス」



メインアトラクション 池田 卓

沖縄県竹富町の西表島出身シンガーソングライターとして活躍している、池田卓さんが民謡音楽を演奏。後半は龍神伝説のエイサーとコラボレーションでの演奏を披露しました。

演目 | 1. 島の人よ 2. 八重山民謡メドレー



6 会場の様子



■ 会場の様子



■ テーブルセット



■ 沖縄県産食材の松花堂弁当

7 ミニツアー

歓迎レセプション終了後、大石林山のトレッキングコースにおいてミニツアーを実施しました。2億5千万年前（古生代）に海の中で形成された石灰岩が地殻変動によって地表に現れてできた大石林山は、さらに数百万年という長い年月のあいだ雨や風などに溶食・侵食され奇石が林立する独特の風景がつくりあげられています。熱帯カルスト地形や巨大ガジュマル、大海原を望む山頂などダイナミックな景観を体感していただきました。

【開催日時】 令和5年8月10日（木）18：00～19：00

【会場】 国頭村 やんばる国立公園 大石林山

【参加者】 69名



記念式典

1 概要

亜熱帯特有の動植物が数多く生息する生物多様性豊かな沖縄の山々、そして、我が国5番目の世界自然遺産に登録された沖縄島北部及び西表島。この自然豊かな環境を将来の世代に継承していけるよう、琉球王国時代からのアジアとの交流により培われてきた歴史や文化を交えながら、県内外の参加者に亜熱帯の山の魅力を発信しました。

【開催日時】 令和5年8月11日(金・祝) 9:00～11:15

【会場】 大宜味村立大宜味小中学校 体育館(大宜味村)

【参加者】 1,078名



2 プログラム

記念式典 / 9:00 ~ 11:15 (8:45~プロローグ)		司会: 宮城 麻里子
1	歓迎合唱 (プロローグ)	大藪 祐歌 (伴奏) ホワイトハンドコーラス NIPPON 沖縄
2	オープニングアトラクション	「オープニング映像」 「あけもどろのサバクイ」 現代版組踊選抜歌舞団 首里当蔵旗頭保存会 玉城流七扇多恵の会 大田多恵子琉舞研究所
3	山鐘 (8点鐘)	有銘小学校、安田小学校、大宜味中学校、 西表ヤマネコクラブの子どもたち
4	開会宣言	超党派「山の日」議員連盟 事務局長 衆議院議員 務台 俊介
5	国歌斉唱	Paraphrase 日和
6	主催者挨拶	大会実行委員会 会長 沖縄県知事 玉城 デニー
7	歓迎挨拶	大会実行委員会 副会長 大宜味村長 友寄 景善 // 国頭村長 知花 靖 // 東村長 當山 全伸 // 竹富町長 前泊 正人
8	祝辞 (ビデオメッセージ)	大会実行委員会 名誉顧問 一般財団法人 全国山の日協議会 会長 谷垣 禎一
9	山の日之歌「山はふるさと」	山の日キッズ合唱団
10	来賓挨拶	環境大臣政務官 国定 勇人 林野庁長官 青山 豊久
11	メインアトラクション	「おきなわ芸能絵巻ぐすーじさびら! ~山の祝祭り~」 <small>まつ</small>
12	リレーセレモニー ・山の日帽引き継ぎ ・次期開催地挨拶	大会実行委員会 会長 沖縄県知事 玉城 デニー 次期開催地代表 東京都副知事 中村 倫治
13	閉会の言葉	大会実行委員会 副会長 衆議院議員 橋本 岳
14	山鐘 (11点鐘)	有銘小学校、安田小学校、大宜味中学校、 西表ヤマネコクラブの子どもたち、ほか



3 歓迎合唱

開式に先立ち、歓迎合唱団「ホワイトハンドコーラス NIPPON 沖縄」による合唱として、沖縄で親しみ深い童謡4曲で皆様をお迎えしました。

合唱曲

1. ていんさぐぬ花
2. 月 (ちいきい) め美 (かい) しゃ
3. ツバメ
4. 誰にだって誕生日 (山の日 version)



4 オープニングアトラクション「あけもどろのサバクイ」

「国頭 (くんじゃん) サバクイ」と「四季口説 (しきくどうち)」からなる本大会オリジナルのオープニングアトラクションとして、琉球王国から続く伝統芸能を披露いたしました。前半の「国頭サバクイ」は、やんばるの山々から木材を伐り出し、首里城まで曳いてきた情景を歌う木遣歌として有名です。後半の「四季口説」は、季節の情景を詠みこんだ七五調の口説にあわせ、両手にもつ扇子を優雅にあつかいながら演じる若衆踊りです

※琉球王国の時代より首里城造営・修復に際し行われてきた祭事「木曳 (こびき) 式」が、令和の首里城再建においても行われ、「木遣行列」で御材木を奉納しました。

※「四季口説 (しきくどうち)」とは、春は花・鶯 (うぐいす)、夏は風の涼しさ、秋は尾花・菊、冬は霰 (あられ)・梅の花とリズムよく四季の特徴を取り入れた古典音楽の楽曲の一つです。

※「あけもどろ」とは沖縄の言葉で「夜明け」の意味があります。



5 登壇者入場・紹介

実行委員会



超党派「山の日」議員連盟 事務局長
衆議院議員
むたい しゅんすけ
務台 俊介



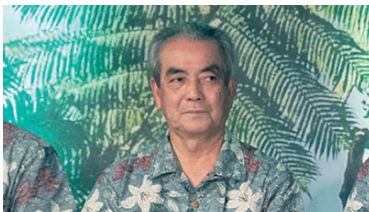
大会実行委員会 会長
沖縄県知事
たまき
玉城 デニー



大会実行委員会 副会長
大宜味村長
ともよせ けいぜん
友寄 景善



大会実行委員会 副会長
国頭村長
ちばな やすし
知花 靖



大会実行委員会 副会長
東村長
とうやま まさのぶ
當山 全伸



大会実行委員会 副会長
竹富町長
まえどまり まさと
前泊 正人

来賓



環境大臣政務官
くにさだ いさと
国定 勇人



林野庁長官
あおやま とよひさ
青山 豊久

6 山鐘（8点鐘）

山や山に関わる人々に思いを巡らせ、山への感謝の気持ちを持ちたいと願い、全国大会では開会時に8回鐘を鳴らします。点鐘者は、東村立有銘小学校、国頭村立安田小学校、竹富町西表ヤマネコクラブ、大宜味村立大宜味中学校の皆さんでした。

山鐘に込める思い

- 【第1山鐘】山の日の誕生を祝う思い
- 【第2山鐘】山に親しむ機会を得ることへの思い
- 【第3山鐘】山、その恩恵に感謝する思い
- 【第4山鐘】山を慈しみ労わり活かす思い
- 【第5山鐘】水や木など山の恵みを大切にする思い
- 【第6山鐘】花や鳥、蝶など山に棲む生き物たちを大切にする思い
- 【第7山鐘】山を愛する人への思い
- 【第8山鐘】山で亡くなられた方々への思い



7 開会宣言



超党派「山の日」議員連盟 事務局長
衆議院議員

務台 俊介

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました、山の日議員連盟の事務局長で、全国山の日協議会の副会長を拝命しております務台俊介と申します。今日は本来であれば衛藤征士郎議連の会長がこちらに来て開会の挨拶をさせていただくところですが、ご案内のとおり台風6号が九州を襲いまして、その対応に追われて今日は急遽来れなくなりました。議連の事務局長を拝命し

ております私が開会の挨拶をさせていただくことになりました。

山の日が制定されて8年目に入ります。2014年にここに今日も来ている超党派の議連の仲間の皆様熱意を受けまして山の日を新たな祝日にしようという運動を始めました。その20年前に「海の日」が祝日になりました。「海の日」があって、「山の日」が祝日でないのは、少しバランスがわるいのではないかという素朴な気持ちから始まった運動でございました。それが功を奏し、スピード感をもって祝日が制定されました。

私の地元は北アルプスを抱えている長野県の松本・安曇野・大北地域でございます。山小屋の皆様、地元の自治体の首長の皆様から、何としても、山の日をつくっていただきたいという要請を受けておりまして、私は衆議院議員に当選して間もなかったところでしたが頑張ってみようという思いがありまして、谷垣禎一先生の御指導の下、議連を設立し、事務局長を拝命しました。

7回目のこの記念式典ですが、私は毎回参加しておりまして、今日も沖縄の町村長さんお越しですが、去年も山形の大会でお会いさせて頂きました。山の恩恵に感謝し、山に親しむ機会を得る。この山の日の意味は、私はとても大きいと思います。

世界を見渡して海とか山とか自然を愛でるための祝日を持っている国は日本しかありません。その日本人の気持ちというのは、「自然と共生する」そしてその気持ちが「平和を目指す」、そんな思いがこの祝日に籠められていると思います。この祝日の記念式典を通じて、それぞれの地域の気持ちが今日のアトラクションにも表われてきているように思います。どうかこの後の色々なイベントを楽しんでいただいて、山を今日1日しっかり考える、そんな日にしていただきたいと思います。

以上申し上げて、拙い挨拶ではございますが開会宣言にかえさせていただきます。

8 国歌斉唱

2021年、愛音楽音楽祭でグランプリ&観客賞を受賞する等活躍中の県出身バンド「Paraphrase
(パラフリーズ)」ボーカルの日和さんアネラが国歌を斉唱しました。
ひより

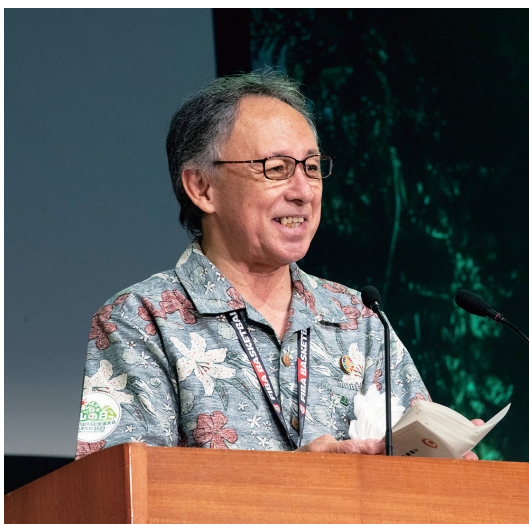
※愛音楽音楽祭は障がいのある方が音楽を通し、社会に参加、発表することで感動と喜びを分かち合い、生きる楽しさを伝える音楽祭です。



写真：記念式典会場客席の様子



9 主催者挨拶



大会実行委員会 会長
沖縄県知事
玉城 デニー

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら。皆様、おはようございます。本日はようこそお越しくださいました。主催者を代表いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

先程開会宣言を賜りました超党派山の日議員連盟の務台俊介様及び国定環境大臣政務官をはじめとする各省庁の方々、並びに全国山の日協議会の方々のお力

添えをいただき、本日ここに県内外から多数の招待者をお招きして第7回「山の日」全国大会おきなわ2023を盛大に開催できることを心から御礼を申し上げます。

本大会は、国民の祝日である「山の日」の制定趣旨の浸透を図るため、これまで名だたる名峰を持つ山岳県で開催されてまいりました。沖縄県には最も高い山でも525メートルと高い山はありませんが、亜熱帯の動植物が数多く生息する生物多様性豊かな森林を有しており、そしてこの森林が河川を通じて海へとつながり、世界に誇るサンゴ礁の海を育てているのが沖縄の山の特徴です。

とりわけ開催地となります沖縄島北部及び西表島は、ヤンバルクイナやイリオモテヤマネコをはじめ、固有種が数多く生息する生物多様性に富んだ地域として、その価値が学術的かつ国際的に認められ、令和3年7月に我が国で5番目の世界自然遺産に登録されました。沖縄島北部に広がる「やんばるの森」は、地域の人々に守り育てられ、私たちの生活に様々な恵みをもたらしてきました。かつて琉球王国の政治文化の中心であった首里城は「やんばるの森」からもたらされた木材で建築されてきました。この度の令和の復元においてもやんばるの木材も活用しているところです。一方、西表島はマングローブ林をはじめとする亜熱帯の原生林やサンゴ礁に囲まれた豊かな自然環境を有しており、島の人々は自然と共生しながら生活を営み、祭りや芸能など独自の文化を継承してきました。本大会では、多くの方々にこの生物多様性に優れた亜熱帯の山の魅力を体感していただくとともに、山と地域との関わりを知っていただくため、地元ガイドの案内によるトレイルウォークを実施しているところです。また、大会の開催を記念して沖縄の低い山の魅力を紹介した「おきなわ百低山ガイドブック」を作成し、本日の参加者にも配布いたしました。ぜひこの機会に自然豊かな沖縄の山の魅力を知っていただき、機会を見つけて足を運んでいただきますと幸いです。

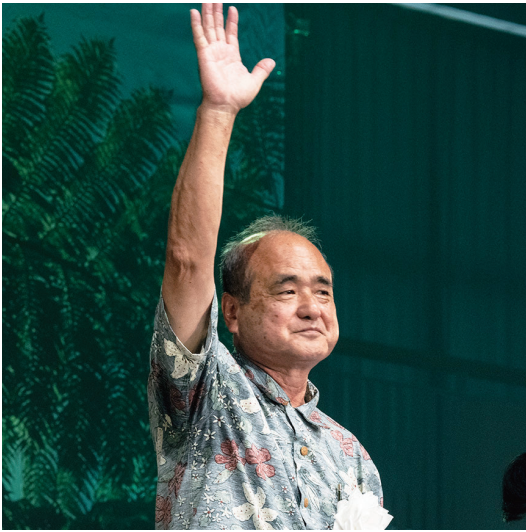
結びに本大会の開催にご尽力をいただきました関係者の皆様方に心から感謝を申し上げますとともに、本日までご参集の皆様方のご多幸とご健勝、並びに美しい日本の山々が将来世代へ継承されていくことを祈念しまして挨拶といたします。

ゆたさるぐとぅに うにげーさびら。よろしくお願ひいたします。まくとぅに にふえーでーびるー。



10 歓迎挨拶

開催4町村の首長と子どもたちが登壇して、歓迎のご挨拶と各地域の紹介、魅力をPRしました。



大会実行委員会 副会長 大宜味村長 友寄 景善

皆さんおはようございます。大宜味村長の友寄景善です。大宜味村は人口3020人が住む明るく元気な村で、長寿の里、芭蕉布の里、ふながやの里として知られています。(児童：シークワサーの里としても有名です！)



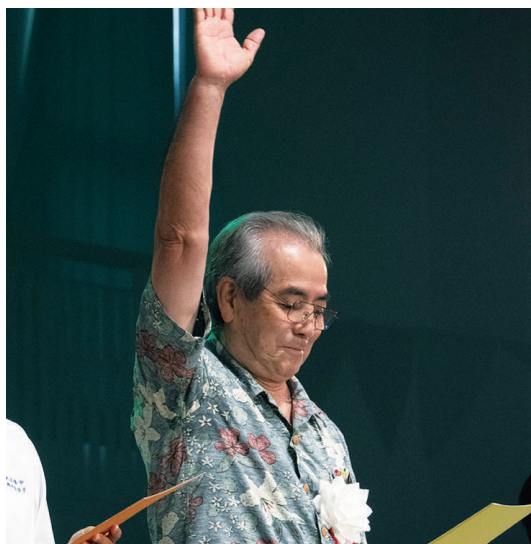
大会実行委員会 副会長 国頭村長 知花 靖

皆さんおはようございます。森と水とやすらぎの里、国頭村長の知花靖でございます。

国頭村は沖縄本島の一番北の端にあり、村の面積の約8割が森林と原野で占められており、そこには多くの希少動植物が生息・育成しておりますので、どうぞこの機会に国頭村にぜひお越しいただき、体感していただきたいと思っております。

(児童：ヤンバルクイナの里としても有名です！)





大会実行委員会 副会長 東村長

當山 全伸

皆さんおはようございます。花と水とパインの村、東村村長の當山でございます。

本日東村では歓迎フェスティバルが行われております。記念行事終了後、ぜひ東村までお越しください。その際には、「道の駅サンライズひがし」において、今が旬のパインアップル東村産のゴールドバレルをご賞味ください。

また、東村の自然体験プログラムに参加していただけたら幸いです。よろしくお願いたします。
(児童：東村のパインを食べて、元気イッパイン！)



大会実行委員会 副会長 竹富町長

前泊 正人

皆さんおはようございます。竹富町長の前泊正人でございます。

竹富町は、一つの島だけではなく、9つの有人島と7つの無人島、16の島々から成る町でございます。

また、この山から海までの多様な自然環境の恵みと、情緒豊かな伝統文化や、多様な芸能を有する町でございます。ぜひこれから機会がありましたら、竹富町の島々へお越しください。お待ち申し上げております。

(児童：日本最南端の大自然と文化の町です！)



11 祝辞（ビデオメッセージ）



大会実行委員会 名誉顧問
一般財団法人 全国山の日協議会 会長

谷垣 禎一

皆さんおはようございます。全国山の日協議会の会長を務めます、谷垣禎一でございます。

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。これを趣旨とする国民の祝日「山の日」が2016年に施行され、ここ沖縄県において第7回目となる「山の日」全国大会の記念式典と歓迎フェスティバルが盛大に開催されますことに、心よりお祝いを申し上げます。

また、沖縄県、国頭村、大宜味村、東村、竹富町の皆様をはじめ、ご関係各位の御尽力に御礼申し上げます。

沖縄県本島北部のやんばる、そして八重山諸島の西表島が、奄美大島、徳之島とともに日本で5カ所目となる世界自然遺産登録地となったのは、2021年7月のことでした。

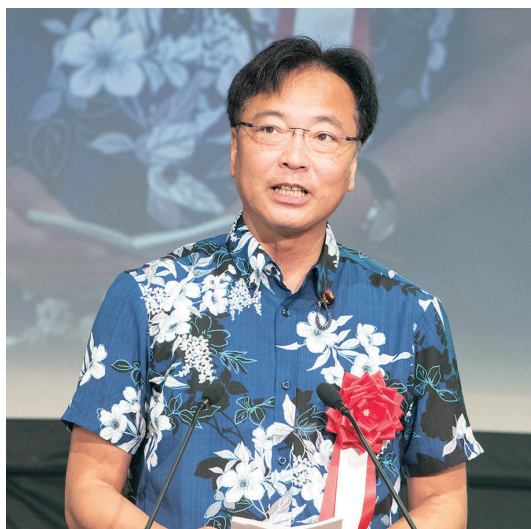
この大会の開催が契機となり、海だけではない、新たな沖縄の魅力が発信され、やんばると西表島の生物の多様性と希少性が多くの方々に紹介され、この世界的な遺産を後世へとしっかりと引き継いでいく責務を皆で共有するとともに、性別、国籍、人種、年齢、世代、貧富や障害のあるなしに関わらず、誰もが「山と自然に親しむ権利」を持つことが、沖縄の文化とともに未来の人々へと引き継がれ、本日の「山の日」以外の364日においても末永くその努力が為し続けられますことを願い、開催の祝辞といたします。

12 山の日之歌「山はふるさと」

「山の日」の制定に尽力された故・船村 徹氏が、総合プロデュースした山の日之歌「山はふるさと」を、新垣雄氏によるピアノ伴奏のもと、山の日キッズ合唱団の皆さんが披露しました。



13 来賓挨拶 -1

環境大臣政務官
国定 勇人

皆さんおはようございます。今ほどご紹介をいただきました環境大臣政務官をおおせつかっております国定と申します。ご挨拶を申し上げます前に一言、過日の台風で尊い命を失われた方々に心から哀悼の意を捧げますとともに多くの皆様方が、今もなお被害に苦しんでおられるという風に伺っております。心からお見舞いを申し上げますとともに、政府としても全力で皆様方に寄り

添いながらしっかりと対応させていただくことを先ずは申し上げたいと思います。

さて「山の日」全国大会おきなわ 2023 を主催する実行委員会の皆様方、またご地元の沖縄県、そして開催地であります国頭村、大宜味村、東村、竹富町の関係の皆様方が、これまでの準備や様々な活動に取り組んでこられましたことに対しまして、この場をお借りいたしまして心から敬意を表する次第でございます。

祝日法改正によりまして、「山の日」が16番目の国民の祝日となりまして、8年目となる本日、この記念式典に環境大臣政務官として参加できますことは大変光栄なことであります。世界で国民の祝日として「山の日」を有するのは、先ほど務台事務局長さんからもご紹介をされましたとおり、我が国だけでございます。

我が国はこの国土の7割が緑豊かな山からなる山の国であります。日本人は、古くから山に畏敬の念を抱き、山の恵みに感謝し、自然とともに生きてまいりました。こうした山への思いは、次の時代を担う子どもたちに着実に引き継いでいかなければなりません。今回の開催地でもあります、沖縄県には美しい海だけではなく、「やんばる国立公園」や「西表石垣国立公園」など、豊かな山と森を有する魅力的な国立公園がございます。また、沖縄島北部および西表島の森には、ヤンバルクイナやイリオモテヤマネコなど固有種が生息し、その唯一無二の価値が国際的に認められ、これも先ほどご挨拶がありましたとおり、一昨年、世界自然遺産に登録されたところであります。環境省では、国立公園の自然を活かした上質なツーリズムと、保護と利用の好循環の実現に向け、「国立公園満喫プロジェクト」を全国で展開しております。引き続き、関係の皆様方と協力をしながら、国立公園等の自然を守り、活かし、将来にわたって多くの方々に我が国の美しい自然を体感していただき、感動していただけるよう取り組んでまいります。

今日という日が、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日として、改めて、すべての国民が山に思いを寄せるきっかけとなることを願ってやみません。

最後になりますが、沖縄県及び関係自治体の今後益々のご発展をお祈りするとともに、ご列席の皆様とともに、山への思いを共有できることに感謝し、私からのお祝いの言葉とさせていただきたいと思っております。本日は誠にありがとうございます。



13 来賓挨拶 -2

林野庁長官
青山 豊久

皆様おはようございます。ご紹介いただきました林野庁長官の青山でございます。

今年で第7回を迎えました「山の日」全国大会が、ここ大宜味村でこのように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、大会実行委員会の皆様、とりわけ準備にご尽力いただきました沖縄県ご当局、国頭村、大宜味村、東村、竹富町の関係者の

皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、今大会の開催地であります沖縄島北部やんばる及び西表島は、亜熱帯特有の動植物が数多く生息し、多様性豊かな森林となっており、世界自然遺産にも登録されております。私も昨日、大石林山ツアーに参加させていただきまして、やんばるの多様な植生に大変感銘を受けたところでございます。林野庁といたしましても、当地の国有林に「森林生態系保護地域」を設定しており、関係機関や地元の皆様とともに、今後も貴重な森林生態系の保護・管理に取り組んで参ります。

今大会のテーマであります、「山を知り、山に感謝し、山を楽しむ」には、山の地形・歴史やそこに存在する動植物など、山についての知識を深め、また山から受ける恵みに感謝し、山と触れ合い楽しむことにより、人生を豊かにして明るい未来を築いていこうという思いが込められていると伺っております。林野庁といたしましても、水源の確保、災害や地球温暖化の防止、安らぎの場の提供、生物多様性の確保など、森林が持つ多様な働きが持続的に発揮されるよう、森林を守り、育てていくとともに、多くの国民の皆様にも、山や森林に触れていただける環境を整えていきたいと考えております。

最後になりますが、本日の「山の日」全国大会を契機に、国民の皆様が山の自然と、そこにある森林に対する理解と関心を深めていただきますことを期待するとともに、ご参集の皆様方のご発展とご健勝を祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

写真：嘉津宇岳から見る名護の街並み



14 メインアトラクション

メインアトラクション「おきなわ芸能絵巻ぐすーじさびら！～山の祝祭り(やまのまつり)～」

「ぐすーじさびら」とは、沖縄の言葉で、お祝いしようという意味があります。メインアトラクションでは、生物多様性豊かな、亜熱帯・沖縄の「大自然」と多彩な「地域芸能」を織り交ぜ、躍動感溢れる、30分間ノンストップの舞台で大会式典を彩りました。

物語のあらすじ

沖縄の神々や精霊、多様な生き物が集まり、年に一度執り行われる、幻の宴「山の祝祭り」。いつしか人間は参加できず、迷い込んだら二度と出られないと言われていた。しかし、その夜、人間の少年タケが祝祭りに迷い込んでしまう。木の精霊キーとブーに出会ったタケは、森を出るため、様々な「森」を巡る。「イチャリパチョーデーの森」では、海を越えて世界と繋がる沖縄を、「チャーガンジューの森」では、健康長寿の力強さを、「ユイマールの森」では、多様な命が支え合い共に生きていることを学ぶ。その中で、成長したタケは、祝祭りのクライマックスで、祖父・祖母から受け継いだ「棒術」を見事に披露。神々は人間を見直す。やがて朝が訪れ、全て夢だったのではないかと疑うタケだが、手には精霊からもらった手ぬぐいがあり、一夜の冒険が幻ではなかったと気づく。この島から未来へと羽ばたくことを胸に誓い、物語は幕を閉じる。

【演出家】 平田 大一

【メインキャラクターキャスト】 横田 龍輝、片山 英紀、東 克明、島袋 美癒音

【パフォーマーキャスト】 山の日ゆいまーるキッズ、日和、きりりん、小嶋 晴樹、嘉手納シニアヒップホップクルー、Halau Hula U' i (フラチーム)、現代版組踊選抜歌舞団、山の日スペシャルバンドメンバー

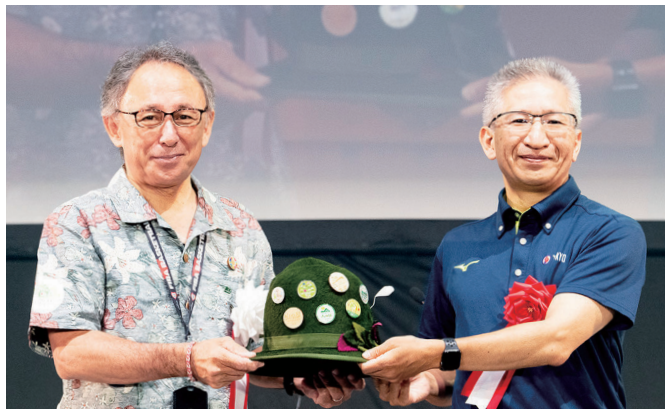


メインアトラクションの様子



15 リレーセレモニー（山の日帽引き継ぎ）

次期開催地の東京都へ「山の日」のシンボルである「山の日帽」を引き継ぎました。



大会実行委員会会長の玉城デニー沖縄県知事から、中村倫治東京都副知事へ、今大会のロゴマークをデザインしたバッジが加わった「山の日帽」が手渡されました。



16 次期開催地挨拶

東京都副知事
中村 倫治

ただいまご紹介いただきました東京都副知事の中村でございます。次回開催都市を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。まず、先週、沖縄を直撃いたしました台風6号でお亡くなりになられました方々に、心からお悔やみ申し上げます。また、被害に遭われた方々に改めてお見舞いを申し上げます。台風で準備ができない日もあったとお聞きしておりますが、第7回「山の日」全国大会おきなわ2023が多くの皆様のご参加のもと開催

されますことを心からお祝い申し上げます。

沖縄大会は世界遺産登録を契機として、雄大な自然を多くの方々に触れていただき感じてもらうとても素晴らしい大会です。この記念式典でも、県民の皆様による自然や文化に関する素晴らしいパフォーマンスを拝見し、大変感銘を受けました。大会の開催に向けまして、ご尽力をされました沖縄県知事 玉城デニー様をはじめ、国頭村、大宜味村、東村、竹富町などの関係者の皆様にご心から敬意を申し上げます。

ただいま大会の象徴であります山の日帽を玉城知事から引き継ぎました。来年の東京都での大会も成功に導きますよう、関係機関の皆様のご指導を頂きながら、東京全体でしっかりと準備を進め、全国からご参加の皆様をお迎えしたいと思います。

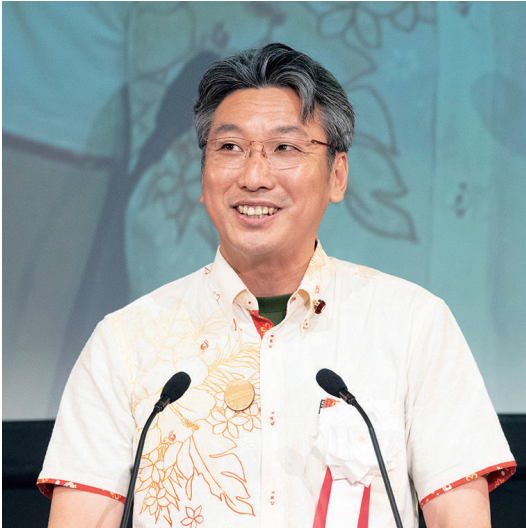
東京には標高2000メートルを超える都内最高峰の雲取山、ミシュランガイド3つ星を獲得した高尾山、山岳信仰の霊山である御岳山など、さまざまな表情を持つ山々で構成される豊かな自然環境も広がっております。山は豊かな自然以外にも多くの機能を有しております。豪雨などの災害から住民の生活を守ったり、食料や木材を供給したり、人々のレクリエーションの場となるなど、私たちの生活と深くかかわっております。都は国産木材の普及活動や近隣県と連携して防災機能を有する森林の適切な管理の検討などに取り組んでおります。

また、都としては、市街地を中心とした生産緑地の保全や都市部における都立公園や再開発に伴う企業緑地の整備など、多様な緑の保全、確保を進めているところでございます。こうした山や緑の生物多様性がもたらす豊かな恵みを将来にわたり受け続けることができる豊かな都市を目指していくため、都は本年4月に生物多様性地域戦略を改定いたしました。来年度の「山の日」全国大会の開催を契機として、東京の生物多様性を広めていくとともに、山の持つさまざまな機能に着目し、東京全体を会場と見立てて区市町村などと連携して大会行事を展開してまいります。皆様、来年は是非、東京都にお越しください。

結びになりますが、本日で参会の皆様のご多幸ご健勝と、第7回「山の日」全国大会の成功を心から祈念申し上げ、次期開催地の挨拶と致します。令和5年8月11日、東京都副知事 中村倫治、本日は誠にありがとうございます。また、来年よろしく願いいたします。



17 閉会の言葉



大会実行委員会 副会長
衆議院議員
橋本 岳

橋本岳と申します。閉会にあたりまして第7回「山の日」全国大会実行委員会副会長として一言御挨拶を申し上げます。

まず初めにこのたびの台風6号の影響により、お亡くなりになられた方々に対し、深く御冥福をお祈り申し上げますとともに被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、日夜、復旧復興にあたっておられる

関係自治体及び関係者の皆様に対し、厚く御礼を申し上げるところであります。

さて、今回は“やんばる”“西表島”の世界自然遺産登録地が開催地ということで、これまでの大会とは少々趣の異なる亜熱帯の山の魅力や歴史文化・海だけではない沖縄の魅力を趣向のこらしたプログラムにより発信していただきました。このことは山に親しむ機会を得て、その恩恵に感謝するという山の日の趣旨を山だけでなく、森、海などのつながりを含め広く捉え、自然に触れ合うこと、次世代につなげていく財産であることを国民の皆様にも広く知っていただくとともに、考える機会となったのではないかと考えております。また、冒頭申し上げましたように、台風6号に沖縄はもちろん、沖縄以外にもですけれども、今被害を受けております。山も決して豊かで温かいばかりではなく、厳しい面も持ち合わせております。残念ながら今年も何件も遭難の報道がありまして、心を痛めていたところでもございました。しかしながら、それでも山には大きな魅力があり、みんな山に行きたくなる、そういうものであります。沖縄も残念ながら、そうした形で被害を受けられており、復旧復興を急がなければなりません。沖縄は元気であり、そして温かくみんなを迎え入れてくれる、そうしたことを今日、この式典、そしてこの山の日のイベントを通じて全国に発信する機会になったのではないのかな、とも感じた次第であります。そうした機会にこの式典がなれば、本当に良かったなと思う次第であります。

この大会の開催にあたりましては、沖縄県、そして国頭村、大宜味村、東村、竹富町の各開催自治体のほか、環境省、林野庁をはじめとする関係省庁、協賛してくださった企業、個人、団体の皆様、そして本日ははるばる会場にお越しをいただいた皆様、Youtubeを視聴して下さっている県内外、そして国外の方々、そして先程パフォーマンスをしていただいた方々、そうした色々な方々のご支援、ご協力がありまして、今日という日を迎えることができました。大会の実行委員会を代表いたしまして厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

来年は東京都での大会でございます。ぜひ来年の今日この日、再び多くの方々と東京都でお会いできるものと期待をしながら、第7回「山の日」全国大会おきなわ2023はこれを持ちまして閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



18 山鐘（11点鐘）

閉会時には、開会時の8つの鐘にさらに3つを加え、11の鐘がメッセージとともに鳴らされました。このメッセージの中に「山の日」に対する思いが込められています。点鐘者は、開会時の皆さんに加え、メインアトラクションぐすーじさびらのメンバー、さらに、山の日キッズのスカーフを制作した琉球藍染織家の真栄城興和さん、歓迎合唱出演者を代表して平田英斗君、そして記念行事にも出演していただいたHYの皆さんと山の日アンバサダーの四角友里さんでした。

山鐘に込める思い

【第1山鐘】～【第8山鐘】

【第9山鐘】 来年の大会の成功への思い

【第10山鐘】 大会に参加された全ての方の幸せへの思い

【第11山鐘】 明るく豊かな山の未来を子供たちに託す思い



19 配布物



■ 参加特典



■ 記念式典・記念行事プログラム

記念行事

1 概要

HY のライブでオープニングを飾ったあと、4 町村の学生による取組発表の中で沖縄の山や自然、文化などの魅力と素晴らしさについて触れ、その内容も交えてトークショーを行いました。トークの終盤では、ゲストにも審査していただきながら「おきなわ百低山フォトグランプリ」の表彰を行いました。最後は、HY と池田卓さんによるスペシャルライブで会場が大きく盛り上がりました。

【開催日時】 令和5年8月11日(金・祝) 11:30～13:15

【会場】 大宜味村立大宜味小中学校 体育館(大宜味村)

【参加者】 1,078名

2 プログラム

記念行事 / 11:30 ~ 13:15		司会: 津波 信一
1	オープニングライブ	HY
2	ゲストによるトークイベント	比嘉 愛未、HY、四角 友里
3	学生発表	辺土名高校、有銘小学校、安田小学校、 西表ヤマネコクラブ
4	ミニライブ	池田 卓
5	山の日作品発表	pokke104、真栄城 興和
6	おきなわ百低山フォトグランプリ 入賞作品発表	
7	ライブステージ	HY、池田 卓

3 オープニングライブ (HY)

世界自然遺産大使を務める沖縄県出身の4人組バンドHYのライブで、記念行事の幕開けとなりました。



4 ゲストによるトークイベント

司会進行：津波 信一

トークゲスト紹介



世界自然遺産大使
比嘉 愛未



世界自然遺産大使
HY



山の日アンバサダー
四角 友里



シンガーソングライター
池田 卓



イラストレーター・アーティスト
pokke104



琉球藍染織家
真栄城 興和



写真：トークイベントの様子



トーク ～ 山の日について ～

津波) さあここからですね山の日全国大会おきなわ 2023 の記念行事、山の日トークショーですね。亜熱帯沖縄の山々にまつわる多彩な沖縄の魅力、すばらしさをゲストを招いて楽しくおしゃべりをしながら、またライブを交えながら進めていきたいと思います。山の頂上にいるような感じでリラックスしていきたいと思います。一度深呼吸してみましようか。はい、せーの、(すーはー)、すごい二酸化炭素ですねこれを山が吸収してくれるんですよ。だから緑は大切ということですね。ではここから進めていきたいと思います。多彩なゲストがおりますね、では新たなトークゲストを2人呼びたいと思います。まずはじめに、アウトドアスタイルクリエイターで山の日アンバサダーの四角友里さんです。続きまして、世界自然遺産大使で女優の比嘉愛未さんです。

比嘉) 皆さんこんにちは比嘉愛未です。今日はよろしくお願いたします。

津波) では山の日トークショーということで進めてまいります。いろんな山にまつわるエピソードをね、お伺いしたいと思います。まずはHYを代表してですね、名嘉俊さんちょっとお聞きしたいんですが、世界自然遺産大使として活躍されておりますけれども、どういった経緯で活動をしてるんですかね。

名嘉) そうですね。まずやっぱり僕たちHYは自然が大好きで、音楽以外にも、プライベートはよく北部に遊びに行くんです。休日にやんばるでイーズーに会うぐらい、僕たち結構やんばるにいるんですよ。

仲宗根) 別々で行って、私が内緒で色々買っているのを俊に見られてましたね。

名嘉) それぐらい大好きで音楽活動以外にも、定期的にビーチクリーンだったり自然と関わる中で、そういった大好きな思いが形になって世界自然遺産大使になれたっていうのは、ものすごく自分たちにとっても、音楽にもものすごく還元できると思う。また音楽から自然にも還元していけたらいいな、という気持ちでいっぱいですね。

津波) 本当にいろんな活動されていますよね。地元の方でキャンプをしながらライブを楽しんでいただいたりとか、自然とすごい近いバンドだなと思いますけどね。

名嘉) はい。大好きですね。

津波) ありがとうございます。じゃあちょっと許田さんにお伺いしたいんですけど、山での思い出とかありますか。

許田) ありますね。僕、幼い頃に保育園の時なんですけど、その施設内にありました人工的に作った山があったんですね。そこに登るのが大好きで、よく登ってたんですけど、いつか子供ですから飽きちゃうじゃないですか。で、何を思ったか今度はタイヤを転がして登るわけですよ。そしたらうまくいくわけじゃないじゃないですか。重いですしバランスも悪いですし、でも何度も諦めずに挑戦してる時にですよ、その小さい山なんですけど、その低山のポコッとしたところにですねタイヤがグリーンヒットしまして、で、バウンドするじゃないですか……。

津波) 何の話をしてる……それは大丈夫ですか？

許田) タイヤを持ちながら登山するっていうチャレンジですね。そのタイヤがでバウンドするじゃないですか。そしたらですね、自分も勢い余ってるわけなんですけど、タイヤがですね見事僕の何て言うんですかね……あの……チョモランマにですね……。

仲宗根) すみません。もういいです！[笑い]

津波) 一旦CMです。続きはどこかでまた。[笑い]
こういう風にちょっとリラックスして、山の魅力を伝えたいということでご了承くださいね。比嘉さんも大笑いでございます。

比嘉) ちょっとこの後に振られるのは話しづらいですよ。

津波) 続いて、お隣の四角さんにお伺いしたいと思います。

四角) 山の日アンバサダーを務めております。関東から来ました四角友里と申します。よろしくお願いたします。

津波) さあ、山の日アンバサダーということですが、どういった活動をされているのか教えていただけますか。

四角) 山の日アンバサダー、登山の仕事をしているという、ものすごいアクティブでスポーツマンって思われると思うんですけど、私ずっと体育の成績が2で、もう



運動音痴でエスカレーターでも戸惑ってしまうぐらいの、体力も運動神経もない、もう登山なんて自分とは違う人種の方たちがするものって思ってたんですね。でも大人になって山に初めて行った時に、葉っぱがキラキラしてたり空がきれいだったり朝日に感動して涙が勝手に出てきたり……。そういった五感が動き出すような感じがして、「あ、登山ってスポーツで体を動かすことではなくて、心を動かすことなんだ」って知ってから山に魅了されるようになってこの仕事を始めました。山の日っていうのも、その山登りをする日とか一部の限られた人のもではなくて、みんなを育ててくれている、大きな自然というものに対して親しんで感謝をする日ということで、今こうやって私のように、自分と関係ないものと思っていた人たちにも、自然に触れてもらうきっかけを作るような活動をしています。

津波) すごくわかりやすいですね。自然から何かを得たりちょっとしたことに、感動したりするっていうことを広めていきたいということですよ。朝日だったり、夕日だったりとか、葉っぱ一つにもということ……。許田さんの後で良かったです。ありがとうございます [笑い] 沖縄には四角さんは何度か来られてるんですか。

四角) はい。ただずっと海のイメージがやっぱり強かったので、なかなか遊びに来るきっかけがなかったんですよ。ただ、ある時に、こう山がいっぱい、もう緑のこんもりした山がいっぱいあるって気づいてから、沖縄に遊びに来る度にハイキングと合わせて旅をするようになりました。

津波) そんな中でハイキングをしながら沖縄の山はどう感じました。

四角) 森の命のエネルギーが濃い強い。エネルギーがすごく強くて、こう受けて帰るものが多いですね。植物がやっぱり本州の生態とは違うので、それにまず感動しますし、山の上に行くと山にいるのに海が見えるっていうのが、すごく贅沢で山も海もいっぺんに楽しめるっていうのが沖縄の魅力だなあと思いました。

津波) 新里さん、うなずいてますけど、これなんか沖縄にいと当たり前になってしまって、山と海もセットみたいな感じになってますね。

新里) そうですね。なんかセットで見ましたね。でもこうやっぱりこの大自然。山に行くと自分たちも、このお仕事させてもらって、鳥の鳴き声とかそこに気づける



耳が持てたというか……。で実際にうるま市に帰っても、今までは気づかなかった、アカショウビンの鳴き声とか、もう鳴いた瞬間に「あ、アカショウビンだ」みたいな時間がですね、すごく楽しみが増えるというか。

津波) ただ流れてる時間じゃないんです。自然を感じる時間を分かって事ですよ。

ではここで、比嘉さんにもお聞きしたいと思いますけれども、比嘉さんも世界自然遺産大使に任命されたということで、その経緯とか活動とか、教えていただけますか。

比嘉) そうですね。私は今年から任命していただいて、活動としては、まだ浅いんですけども、これから学んでいきたいなと思っていて、私、元々高校時代に中部農林高等学校で愛玩動物飼育科という学科で、動植物について学んでたんですね。飼育方法とか、もともと子供の頃から自然や動物が大好きだったので、そういうお仕事があったんです。今は役者という仕事に巡り合えて、表現するお仕事をしてるけど、思い返したら沖縄のこの自然からもらったエネルギーをもとにして、今表現できてるなって。だからこそ私が今やりたいことって何だろうと思った時に、それをHYさんの皆さんもおっしゃってましたけど還元したいなと思ったんです。沖縄に。

津波) 演技を通して映像を通してとか舞台を通してとかってということですね。

比嘉) それもそうですけど、それプラス世界自然遺産大使として、ちゃんと自分の言葉で思いを伝えることも、また一つの表現なのかなって、なので今はなんかもっと知りたい、学びたいという気持ちが大きいですね。

津波) すごいです。経歴と言いますか、高校でそういう勉強してたっていうのも初めて聞きましたし、そんな中で山に入ってみて動物たちとか色々触れ合うじゃないですか。何か感じることもありますか。

比嘉) 本当に皆さんおっしゃるようにエネルギーが違います。私自身も上京して、いろんな土地の山だったり

自然を見てきてはいるんですけど、本当にエネルギーというか、生きているっていうパワーがすごくひひひと感じますね。あと昨日もこの仕事のために前乗りして、プライベートでやんばるの森ネイチャーガイドツアーというものに参加してきたんですね。本当に皆さんおすすめてです。EVバスと言って排気ガスが出ない、エコのバスに乗って2時間ぐらいツアーで回んですけど、現地出身の人でも見たことがないやんばるの凄さを間近で見れたんですね。なんかそこは本当にすごかったです。

津波) ほんとと自然ってすごいですよね。それを感じて、また改めてどういった演技とかね、映像とかでまた生き生きとした比嘉さんが見れると思いますので、楽しみにしてますね。



5 学生発表

開催4町村の辺土名高校、有銘小学校、安田小学校、西表ヤマネコクラブの学生がフィールド観察などによって、自然環境を深く理解する取組を行っています。世界自然遺産登録地の沖縄島北部や西表島の素晴らしい自然環境を身近に感じる学生たちが、取組をとおして発見したやんばるの山や西表島の自然の魅力、学生ならではの視点でまとめた内容を発表しました。



6 ミニライブ (池田 卓)

I トーク ～ 故郷の山 ～

津波) 竹富町西表島出身のシンガーソングライター、池田卓さんにもお越しいただいています。池田卓さんステージへお願いします。

池田) 池田卓でございます。よろしくお願いたします。

津波) 早速ですが西表島、特に卓さんが住んでいるところは船浮というところですか。僕も音祭りというので行ったことがあるんですが、改めてどういったところでしょうか。

池田) 陸の孤島と呼ばれていて(島の周囲に)一周道路がなくですね、上半分だけしか道がないです。僕のふるさととは下の方 において西表島の道の最終地点から船でしか行けないところですか。だからこそ海山の自然がすごい豊かで綺麗なところですか。

津波) そんな中、目の前は海、後ろ振り向くと山っていうね自然環境ですけど、山でのエピソードがあれば教えてください。

池田) 本当に山で育ったのでいっぱいあるんですけど、でもやっぱり小さい時から、お父さん、お母さん、じいちゃんばあちゃんについて回って、山に行ってたんですけども琉球竹っていう4月にとれる小さなタケノコがあるんですけど、ばあちゃんと取りに行くと、この山で迷ったんですよ。で、一人で迷って降りようとしたら、もう崖しかなくてすね、ちっちゃい100mぐらいの山なんですけど、それでも本当に日が暮れるぐらいまで迷って、最終的には下りてこれたんです。けどそしたらばあちゃんが「何でか(下りたのか)」「山で迷ったら登れ」って言われて、頂上に行けば、

必ず頂上には道があるからっていう。本当に人生の教えというか、やっぱり人生も一緒に迷った時は登れ。あ〜こういう発想っていうのがなかったので、すごいなんか印象に残ってるんですけども、もちろん深い山とかだとね、沢に降りたらとか色々ケースバイケースだと思うんですけど、本当にいろんなこと教えてもらいました。山も海も。

津波) じゃあもう、おばあちゃんと山といろんな思い出があるって事ですね。

【池田卓 1 曲 (おばあちゃんの唄)】

津波) 素敵なお歌でした。ありがとうございます。ではちょっと四角さんにお話を伺いたいと思えますけれども、四角さん、八重山の方は行ったことありますか？

四角) はい。西表島に息子と旅をしまして、浦内川を船で登って行って、その後滝までハイキングをしました。

池田) 日本の滝百選に選ばれてますね。

四角) そうなんです。すごい雄大な滝で、マングローブの根が足に見えて、こう海と山を行き来してるような、歩き出すんじゃないか、みたいな感じがしました。

池田) あ〜鋭い。そのマングローブのヤエヤマヒルギって言うんですけど、タコ足みたいなやつ、あれが方言でプシキって言うんですけど、おへその木っていう意味で、山と海の間、繋ぐ木ですよ。

四角) あ〜繋ぐ木。山の作った水が海に流れてるから、こうやって海がきれいなんだとか、やっぱり距離が近いので山と海って別に隔たれたものじゃなくて一つの自然なんだっていうことをすごく感じる事ができて素敵なお山歩きをさせてもらいました。

池田) 今度、船浮までお越しください。



シンガーソングライター池田卓により、沖縄で親しみ深い民謡音楽(曲:おばあちゃんの唄)が披露されました。

7 山の日作品発表

トーク ～ 作品について ～

津波) それでは、さらにゲストをお呼びしたいと思います。今日の山の日をアートで彩ってくださったクリエイターお二人を紹介します。はじめに、沖縄県出身アーティスト、イラストレーターとしてご活躍の pokke104 さん、続いて琉球藍染色家の真栄城興和さんお二人に来ていただきました。

pokke) イラストレーター pokke104 こと池城由紀乃と申します。よろしくお願ひ致します。

真栄城) 本部町で琉球藍染色家として活動しております。真栄城興和と申します。本日は宜しくお願ひ致します。

津波) 今回お二人が山の日アートクリエイターとして作品制作を行ったということなんですけど、まずは pokke104 さんといえばイラストで大変有名ですけども、先ほどのメインアトラクションの衣装もね、とても素敵でしたけれども、その時に登場したサガリバナの装飾をされたんですよね。

Pokke) 先月、この大宜味村立小中学校の子供たちと制作しました。

津波) その制作ワークショップの映像があるのでご覧いただきたいと思います。

【映像を流しながら】

Pokke) 今回ですね約 130 人の子どもたちと一緒にあって、身近にある家にあるような素材で、一緒にサガリバナを作りました。小学生と中学生が

同じテーブルで作ることで、みんなで助け合いながら、花を咲かせて欲しいという気持ちで取り組みました。サガリバナの花言葉が「幸福が訪れる」っていう意味なんです。みんなで作ったものが、この会場でも幸せいっぱい空間になってほしいなと思ってます。

津波) 幸福が訪れるといいですね。このサガリバナですが、池田さん八重山の方でも有名ですよ。

池田) いっぱいあります。よく僕が説明するのがサガリバナって実は人が持ち込んで植えた木で、イノシシに稲とか食べられないように、山の上に猪垣 (いのがき)、2メートルぐらいの猪垣を石で作るんですけどそれも超えちゃうんですよ。それをサガリバナを 10 cm 間隔で植えて、自然の柵を作ってイノシシが入ってこないようにしたのだから、西表島の山裾には全部サガリバナが、昔の方が何百年前に植えたサガリバナがきれいに並んでるんですけど、その残りですね。だから今サガリバナが見れるところは、もともと田んぼとってほぼ間違いないと思います。東南アジアから持ち込んだものですが、もう何百年も前からデイゴのようにね、もともとは原産が他の国でも県花になれるように、今で言えばもうサガリバナも、もしかしたら沖縄の立派な木だと思うんです。

津波) 続いて真栄城興和さんにお話を伺いたと思います。琉球藍染色家として今回は山の鐘を鳴らした子どもたち、山の日キッズ合唱団のスカーフを作られたということですね。

真栄城) 今回、合唱団のスカーフを空や海の青をイメージして本部町の地域起こし隊の仲間と一緒に



制作しました。

津波) 制作の様相がありますので、映像をご覧くださいませ。

【映像を流しながら】

真栄城) 着物の生地を作っていて、その糸を染めています。最初緑なんですけど空気酸化で青に変わるというのが琉球藍の特徴になります。染め重ねることで色がだんだん濃くなって、これが昔ながらのヤーマ(糸車)といって糸を巻く機械、木で作られた道具です。こちらが僕オリジナルの車椅子専用で木工職人さんと2017年に作ってもらった高機(たかばた)という道具になります。足を踏み替えることで糸が交差してトントンとして糸を詰めて布になっていくという。時間がかかります。今回のスカーフもタイダイ染めという技法を使って制作しました。

津波) 素晴らしいですね。すごいですね。なんかここだけでも感動してます。今回スカーフを制作した際の苦労した点などあれば教えてください。

真栄城) 今回は山の日ということで山と海ってつながって、琉球藍も微生物の働きで青に染まるとい染料なので自然をイメージした空とか海を意識したデザインにしました。

津波) 素晴らしいですね。さてさて、そんなチャレンジな興和さんでございますけど、今の映像を見て感想があったら比嘉さん、一言二言教えてください。

比嘉) 私は琉球藍、今初めて作る作業だったり工程を見たんですけど、やはり今この時代というか大量生産して工場でも作れる時代の中で、ちゃんと職人の技で、ちゃんと伝統をつなげていく作業をされてること、本当に尊敬でしかないです。



そういうカッコいい大人がいることで、絶対それを見た若い子どもたちが、自分もこういう夢があったらいいなとかすごく広がると思うので、もちろん自然もそうですけど、それが人間みんなの素敵な未来につながっていくんじゃないかなって・・・もう大きなことになっちゃいますけど一人がそういうことをすることで、つながっていくんだなってすごい希望が見えましたね。本当にかっこいいです。

真栄城) 世界最古の染料って藍って言われてて、世界でインディゴって呼ばれてるんですけど、それがその沖縄でやんばるに生息している。それを使った先人の技術に僕はすごい見せられてて、仕事をしながら後世という子供たちにも伝えていきたいというのが僕の目標であったりします。

津波) 素晴らしいですね本当にこの宝物、またしっかりと守ってつなげていっていただきたいと思います。ありがとうございます。pokkeさんそして真栄城さん素敵な作品ありがとうございます。これからも沖縄の自然を感じられる作品づくりを期待しておりますね。



8 おきなわ百低山フォトグランプリ入賞作品発表

本大会にあわせて、沖縄の山の魅力を再発見するため、沖縄県内で撮影された山、岳、森などの写真とエピソードをインスタグラムで募集しました。「#おきなわ百低山」のハッシュタグがつけられた沢山の応募作品（226 作品）の中から、グランプリ、優秀賞等のほか、ゲスト特別賞が発表されました。



グランプリ

受賞者：shirokuma_pic
撮影場所：城山（伊江島タッチュー）

優秀賞



受賞者：iriomote_umiacchar
撮影場所：西表島の地下の山



受賞者：maple_walnut
撮影場所：石垣島 野底マーペー

山あっちゃー賞 (特別賞)



受賞者：genp.genp (全10投稿)
※山あっちゃー＝沖縄の方言で「山を歩く人」という意味。

比嘉 愛未 賞



受賞者：koza.hiroshi
撮影場所：安田灯台

HY 賞



受賞者：mamaru_ru_
撮影場所：名護市真喜屋

四角 友里 賞



受賞者：YK
撮影場所：本部富士

池田 卓 賞



受賞者：saitoutao
撮影場所：ぶざま岳

pokke104 賞



受賞者：u_ideaninben
撮影場所：名護岳

真栄城 興和 賞



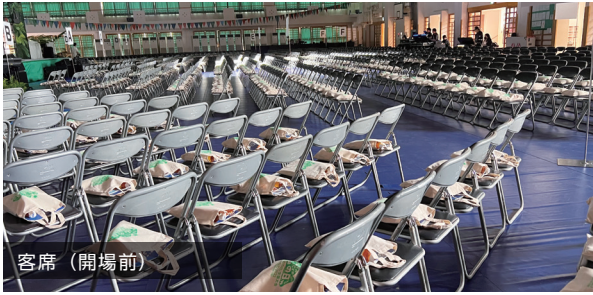
受賞者：104tour
撮影場所：石川岳



9 ライブステージ (HY&池田 卓)



10 会場の様子



客席 (開場前)



協賛企業紹介ボード



会場入口



会場入口 展示物



会場入口 配布物



客席 (開場後)



学生発表



歓迎フェスティバル

1 概要

世界自然遺産に登録された沖縄本島北部のやんばる地域や西表島の豊かな自然の魅力を楽しみながら学び、感じ、来場者に人と自然のつながりを再認識していただくフェスティバルを開催しました。ステージイベント、体験ブース、地元の特産品販売ブースなどに、たくさんの方にご来場いただきました。

【開催日時】 令和5年8月11日（金・祝）10：00～17：00

【会場】 東村村民の森つじエコパーク、福地ダム（東村）

【参加者】 4,830名（招待者、一般参加者）



2 大会スポンサーブース



3 山の日 PR ブース



4 特産品・工芸品物販ブース



特産品・工芸品物販ブース



5 体験ブース



6 キッチンカー



7 ステージイベント

ステージイベントスケジュール

イベントの様子

ステージ 第1部

- 11:00 ~ 司会：キンピラゴボウ
開会宣言：護得久 栄昇、仲座 健太
- 11:10 ~ サンパダンス：宮城姉妹
- 11:20 ~ お笑いショー：よっしゃあ金城
- 11:30 ~ お笑いショー&歌唱：護得久 栄昇
- 11:40 ~ トークイベント：護得久 栄昇、仲座 健太、
宮城姉妹、よっしゃあ金城
- 12:30 ~ トークイベント：ゆるキャラ紹介
アコーディオン演奏：山原 麗華



キンピラゴボウ



護得久 栄昇



仲座 健太



宮城姉妹



よっしゃあ金城

出張ラジオ放送

- 14:00 ~ 15:40
HY 山の日スペシャル出張放送&ライブ

RBC
iラジオ



沖縄の自然の魅力や「山の日」についてのスペシャルトークを生放送



HY による
山の日
スペシャルライブ

ステージ 第2部

- 16:00 ~ 第2部開会：護得久 栄昇、仲座 健太
- 16:10 ~ トークショー
ゲスト：池田 卓、四角 友里、pokke104
- 17:00 ~ 閉会



池田 卓



四角 友里



pokke104



関連イベント

pokke104 ワークショップイベント

第7回「山の日」全国大会おきなわ 2023 の関連行事として、大宜味小中学校で、講師の pokke104 さんをお迎えして、「サガリバナ（ペーパークラフト）」の制作ワークショップを行いました。小学5年生～中学3年生までの児童生徒の皆さんが、グループに分かれ、講師の指導のもと約90分間熱心に制作活動を行いました。大会式典の総合演出を行う平田大一氏も参加し、子どもたちに大会の意義を説明し、一緒にワークショップに参加しました。制作したサガリバナは、大会式典のメインアトラクションにおいて衣装の一部として使用され、大会後は小中学校に展示されています。

【開催日程】 令和5年6月22日（木）

【会場】 大宜味村立大宜味小中学校 体育館

【参加者】 大宜味小中学校生徒（小学5年生～中学3年生）

